

# 今年も岩木健康増進プロジェクト

## 2000項目で「世界一」の調査

### 弘前 1100人、健診スタート

弘前市岩木地区の住民を対象にした大規模な健康調査「岩木健康増進プロジェクト」の健診が25日、今年も中央公民館岩木館と岩木文化センターあそべーるで始まった。健診では一人に対し、2000項目という「世界一」の項目量で健康状態について徹底的に調べる。健康寿命延伸に向けて産学官民が連携する取り組みでもあり、10日間で約1100人が受診する。

(成田真由美)

同プロジェクトは、2005年度にスタートし、今回で15回目。健診は弘大、弘前市、県総合健診センターなどが連携して実施し、住民自身が詳細な健康状態を知り、疾病予防や健康の維持につなげている。全国の企業約40社や研究社らも参加

し、世界から注目される健康ビッグデータの集積を一層充実させている。初日の25日、会場には花王、クラシエ、ファンケルなどヘルスケアで有名な大手企業による疲労度(自律神経機能低下)測定や、野菜不足判定、肌や毛髪

チェックなども行われた。参加した自営業鳴海潤一さん(44)は「時間は掛かるが、無料で病気の早期発見につながる。データを生かし短命県返上や世界の健康づくりに役立てたい」と話した。

弘大COI戦略統括前次COI(センター)・オブ・イノベーションの村下公一教授は「岩木のデータから疾患発症予測モデルの開発が進むなど医学的な新たな知見が生まれつつある。データを生かし短命県返上や世界の健康づくりに役立てたい」と語った。

同日、健診を視察した櫻田宏市長は「産学官民の力があってこそプロジェクト。健康で長生きにつながる取り組みとして、市も応援していきたい」と述べた。



視察で検査を体験する櫻田市長(中央)

同日、健診を視察した櫻田宏市長は「産学官民の力があってこそプロジェクト。健康で長生きにつながる取り組みとして、市も応援していきたい」と述べた。